

## 2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 1 月 15 日作成)

小委員会名	持続可能な観光地形成小委員会	主 査 名：岡村 祐 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：小浦 久子
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>(設置目的)</p> <p>前身の「地域観光プランニング小委員会」(2017-18 年度)では、持続可能で質の高い観光地域の計画手法(=地域観光プランニング)として、8つのプロセスと30のアクションを提起し、2019年3月に「サステイナブル・デスティネーション(仮)」(学芸出版社)を刊行予定である。これは、資源の把握、推進組織体制の構築、計画策定から事業の実施までを網羅した総合的なものである。本小委員会では、観光地域における現代的課題としての「オーバーツーリズム：過度な観光客の流入が住環境や都市インフラなどの都市生活を脅かしている現象」に焦点を当て、地域観光プランニングの理念や手法を基軸に、いかに計画的介入が可能なのか検討を行う。また、その際に被コントロール対象者となる観光産業や観光者の存在を重視する必要がある。くわえて、本小委員会では、WGを設置し、上記の「地域観光プランニング」をひろく普及させ、発展的に議論するために、複数のアウトリーチプログラムを実施する。詳細は、以下の通りである。</p> <p>初年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・刊行図書を素材とした社会人向け講座の開催(5-8月)</li> <li>・地域観光プランニングカレッジ(9月)(金沢予定)</li> <li>・小委員会メンバーによる合同視察(時期未定)</li> <li>・オーバーツーリズムに関する事例調査・研究テーマの探索(通年)</li> </ul> <p>2年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域観光プランニングカレッジ(9月)(場所未定)</li> <li>・小委員会メンバーによる合同視察(時期未定)</li> <li>・オーバーツーリズムに関する事例調査(通年)</li> <li>・観光事業者との連続公開研究会(通年)</li> </ul> <p>3年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会時の研究集会(8月)</li> <li>・小委員会メンバーによる合同視察</li> <li>・オーバーツーリズムに関する計画手法検討(通年)</li> <li>・観光事業者との連続公開研究会(通年)</li> </ul> <p>4年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーバーツーリズムに関する図書の刊行</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	主査：岡村祐(首都大学東京) 幹事：西川亮(立教大学) 委員：川原 晋(首都大学東京)、姫野 由香(大分大)、伊藤 弘(筑波大)、佐野 浩祥(東洋大)、永瀬 節治(和歌山大)、永野 聡(立命館大)、山崎嵩拓(東京大)、阿部大輔(龍谷大)	
設置 WG (WG名：目的)	「地域観光プランニング」アウトリーチ WG 刊行図書を素材とした社会人向け講座の開催(5-8月)、地域観光プランニングカレッジ(9月)の企画・運営を行う	
2019 年度予算	220,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://tourism-and-regional-planning.com">http://tourism-and-regional-planning.com</a>

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)

<p>刊行物 (シンポジウム資料等は除く)</p>	<p>世界の観光都市はオーバーツーリズムにどう立ち向かっているのか, 学芸出版社 (2020年1月脱稿予定)</p>
<p>講習会</p>	
<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画</p>	<p>地域観光プランニングカレッジの開催 (三重県志摩市にて9/10-9/15。学生・教員合計25名参加)</p>
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>刊行図書を素材とした社会人向け講座の開催 (5-8月)</b> 持続可能で質の高い観光地域の計画手法(=地域観光プランニング)として、8つのプロセスと30のアクションを提起した「サステイナブル・デスティネーション(仮)」の執筆を進めた(2020年2月脱稿予定、学芸出版社)。原稿執筆にあたり、地域観光プランニングにおける資源の把握、観光プログラムの企画、推進組織体制の構築、事業実施など特定テーマを掘り下げるとともに、事例分析を進めた。連続講座に関しては、執筆原稿に基づき実施する予定であったが、今年度は執筆に注力したため、実施することはできなかった。次年度以降、刊行図書のプロモーションも合わせて実施したい。</li> <li>・ <b>地域観光プランニングカレッジ (9月)</b> 「地域観光プランニング」の一部プロセスを、学生が体験できる「地域観光プランニングカレッジ」を9月に5泊6日で実施した。対象地の三重県志摩市における、計画提案を行った。</li> <li>・ <b>小委員会メンバーによる合同視察</b> 2019年6月に小委員会委員の6名でスペイン・バルセロナのオーバーツーリズムに関する視察・調査を実施(現地でのヒアリング2件)。</li> <li>・ <b>オーバーツーリズムに関する事例調査・研究テーマの探索 (通年)</b> 4回の小委員会でオーバーツーリズムに関する研究テーマの議論と最新の欧州各国の取り組み状況に関する共有を行った。</li> <li>・ <b>新たな小委員会委員の検討 (通年)</b> 本テーマに関して、研究者の視点のみならず実践者(行政・民間事業者等)の視点を取り入れて議論を進展させるべく、新たなメンバーの検討を行った。</li> <li>・ <b>オーバーツーリズムに関する図書の出版</b> 国内外のオーバーツーリズムの状況を学術的に分析した書籍を執筆した(2020年1月脱稿予定、学芸出版社)。海外に比べ国内ではオーバーツーリズムに関する学術的知見の蓄積が遅れていたが、本書によって一定水準にまで研究レベルを引き上げることができた。</li> </ul>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国内外のオーバーツーリズムに関する知見を更に深化させ、地域の環境管理と、観光事業・観光経営の融合・協調という点について、今後具体的に研究を進めていく必要がある。</li> <li>2. 持続可能な観光地形成を目指すために必要となる職能、人材、組織に関して、「カレッジ」の試行やケーススタディを踏まえて、研究していく必要がある。</li> </ol>